

「人の視覚認知・解釈の能力に着目した新しいゲーム性の開発」

東京藝術大学 大学院映像研究科 教授 佐藤雅彦
慶應義塾大学 佐藤雅彦研究室 訪問研究員 石川将也
慶應義塾大学 佐藤雅彦研究室 訪問研究員 菅 俊一
慶應義塾大学 佐藤雅彦研究室 訪問研究員 山本晃士

1. 要旨

本稿は、平成19年度中山隼雄科学技術文化財団の委託調査研究「人の視覚認知・解釈の能力に着目した新しいゲーム性の開発」の成果報告書である。本研究は平成18年度中山隼雄科学技術文化財団委託調査研究「脳科学の知見に基づいた新しいゲーム性の開発」の研究成果を引き継ぎ、テレビゲームにおける従来存在しなかった新しいゲーム性を開発することを目的とした、研究プロジェクトである。

平成19年度の研究開発において私たちは、認知科学の考え方、特に「仮現運動」や「共時性」といった原理に基づいた表現の研究開発に取り組んだ。ここでは、その成果を報告する。

2. 研究成果

本研究開発では、直接ゲームを開発するのではなく、「これまでにない新しいゲーム性」を模索する為に、まずそのようなゲーム性の芽となる表現の「要素」の研究を認知科学の観点から行い、それに基づいて開発した表現を書籍や展示といった形で発表してきた。本稿では今年度の委託調査研究の成果として平成17年度の委託調査研究より取り組んでいる書籍「差分」の完成、「計算の庭」の平成19年度における成果、展示「君の身体を変換してみよ展」の開催について報告する。

2-1. 差分プロジェクト

研究の第一段階として私たちは、もっとも単純な視覚情報である「静止画」を複数枚提示し、その「差分」を取ることで、鑑賞者の中に新しい表象を生むことを目的とした表現の開発プロジェクト『差分プロジェクト』を平成17年度から平成19年度にかけて行った。本プロジェクトの成果は、一冊の単行本としてまとめ、2009年3月末に書籍『差分』として、美術出版社より刊行する。『差分』の刊行をもって、本プロジェクトはひとつの節目を迎えたが、本プロジェクトによって得られた、人間の認知と表象に関する知見が数多く、これらの知見は今後の研究開発に深く関わってくると私たちは考えている。

2-2. 計算の庭

本研究を代表する佐藤雅彦は平成18年度に本研究の一環（奨励研究）として、東京藝術大学大学院桐山孝司 准教授と協同で、インスタレーション作品『計算の庭』を開発した。

さらに、平成 19 年度の成果として、「計算の庭」は東京都新宿区初台の NTT インターコミュニケーション・センター (ICC) において行われた展示「オープン・スペース 2008」に、近年のメディア・アートを代表する作品のひとつとして招待された。ICC では、新たな要素として、鑑賞者の計算結果を出力するプリンター台を設置し展示を行った。2008 年 4 月 19 日から 8 月 31 日まで四ヶ月の展示期間中、28,295 人が計算の庭を体験した (2008 年の森美術館における展示の体験者 43,628 人と併せて、合計 71,923 人が体験した)。

2-3. 君の身体を変換してみよ展

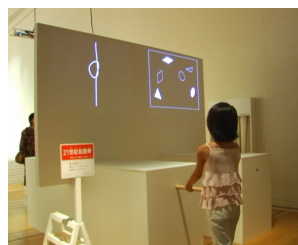
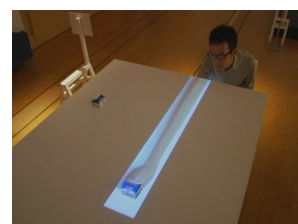
本研究活動の一環として、私達は東京藝術大学映像研究科 佐藤雅彦研究室と、同桐山孝司研究室およびユーフラテス (慶應義塾大学佐藤雅彦研究室の卒業生からなるクリエイティブ・グループ) と共同で、NTT インターコミュニケーション・センター (ICC) において、「君の身体を変換してみよ展」を開催した。

本展覧会では、認知科学の知見、特に「人間に生得的に備わっている能力」に着目し、それらと科学技術を組み合わせる事で、鑑賞者の中にこれまでに感じた事の無い全く新しい身体表象を生むことを目的とした。

人間は視覚、触覚、聴覚などのさまざまな感覚がセンシングした情報を無意識に再構成し理解している。私達は現代の科学技術を使って、この「無意識の再構成」に介入し、身体感覚の新しい統合やズレを引き出す、「実験装置」ともいえる 5 つの作品、〈点にんげん 線にんげん〉、〈翔べ！小さな自分〉、〈伸びる腕〉、〈21 世紀如意棒〉、〈マイクロ職人修行〉を新たに制作した。さらに『計算の庭』も、オープン・スペース 2008 に引き続き『君の身体を変換してみよ展』内の 1 作品として、同会場にて展示を行った。

「君の身体を変換してみよ展」は、2008 年 7 月 12 日から 2008 年 8 月 31 日まで、ICC にて、夏休みの小中学生に向けたメディア・アートの体験プログラムである「キッズプログラム」のメインイベントとして開催された。この展覧会の来場者数は 41 日間で 23,389 人を数えた。これは、ICC の 1 つの企画展としては、過去最高の動員である。

さらに、本展覧会は文化庁が主催する 2008 年文化庁メディア芸術祭のエンターテイメント部門において、優秀賞を受賞し、2009 年 2 月 3 日に表彰された。また、2009 年 2 月 4 日から 2 月 15 日にかけて、国立新美術館で行われた「第 12 回文化庁メディア芸術祭」において、本展覧会の映像の上映を行なった。



君の身体を変換してみよ展

撮影：木奥恵三 写真提供：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]